



内子町における埋蔵文化財の利活用 —小田地区太田城出土遺物を対象として—

文化資源マネジメントコース
文化遺産論 村上ゼミ
稲岡沙耶 河田志帆 菅山侑杏
竹中嵩瑛 田村侑大 藤井凜太郎



- 01 はじめに
 - －内子町の埋蔵文化財をめぐる問題点と本プロジェクト－
- 02 太田城出土遺物利活用のための調査の流れ
- 03 内子町小田地区太田城
- 04 太田城出土遺物の評価
- 05 広島県における太田城出土遺物の類例調査
- 06 調査成果・総括
- 07 今後の展望
- 08 謝辞
- 09 参考文献

01. はじめに

ー内子町の文化財をめぐる問題点と本プロジェクトー

内子町といえば…

- ・八日市護国伝統的建造物群、上芳我邸、内子座……………
- ・江戸時代以降の歴史資源は豊富で観光施策とともに結びついて利活用が進行
- ・小田地区での井口梓先生ゼミの“ライフヒストリー”調査・研究は類例がない。



江戸時代以降の文化財に比べ、中世以前の文化財の調査研究/活用が少ないという現実 (by内子町教育委員会担当者)

- 理由：①財源の制約で町並保存に注力したこと
②文化財担当の専門職がこれまでいなかったこと
③過去の調査で地権者の反対があったこと

⇒現在は地権者も含めた地域の人も地域づくりに
中世以前の文化財も活かしていきたいという声が出てきた。



▲教育委員会担当者との意見交換会

私たちの考え

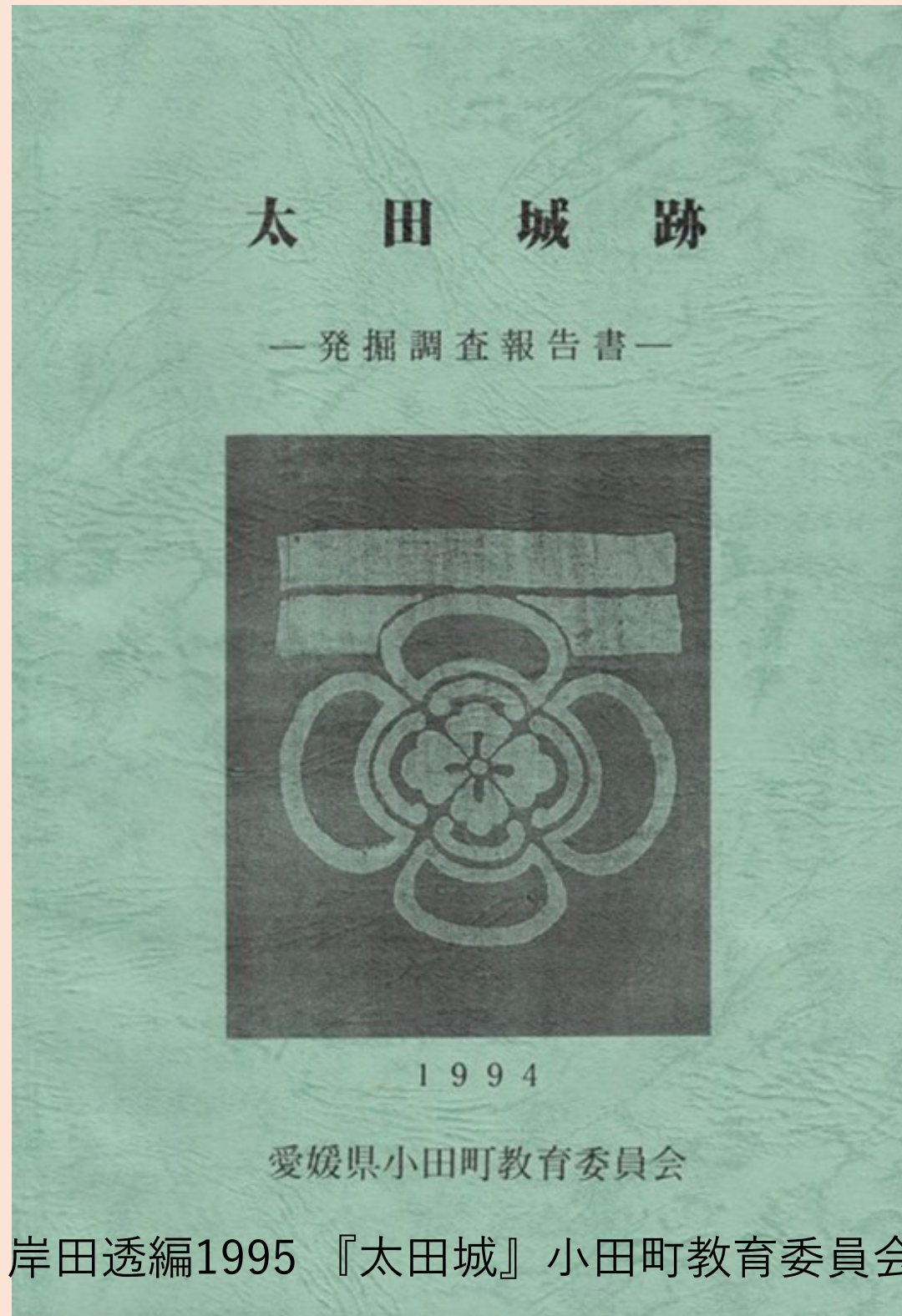
- ・江戸時代につながる中世・戦国時代の生活・文化を物語る文化財を調査研究し、利活用ができないか。
- ・少ないながらも内子町が発掘調査してきた遺跡の中に中世・戦国時代の遺跡がないか。
- ・そのような文化財（埋蔵文化財）があれば、それを利活用につなげられないか検討するべきではないか。

01. はじめに

ー内子町の埋蔵文化財をめぐる問題点と本プロジェクトー

模索の結果・・・

- ・小田地区太田城の存在を知る。
- ・1983（昭和58）年～1994（平成6）年、3度の発掘調査
- ・調査面積は1万平米を超え、松野町の国史跡河後森（かごもり）城の調査面積をしのぐ最大規模の山城調査であったことが判明。
- ・発掘された遺物はすでに閉館された旧小田町郷土資料館に収蔵。



岸田透編1995 『太田城』 小田町教育委員会

小田地区内に文化財の保存を訴える団体、愛宕山保存会があり、その団体が小田地区愛宕山頂上にある居倍野（いばいの）城の発掘調査を要望。



- ・中世以前の文化財の利活用の実現という内子町教育委員会の願望
- ・中世山城を深く知りたいという小田地区住民の願望

太田城出土遺物の現状



太田城出土遺物が眠る
旧小田町郷土資料館



資料館玄関



資料館内部



出土遺物

02. 太田城出土遺物利活用のための調査の流れ

太田城出土遺物の調査

太田城出土遺物の種類・機能・
産地の解明



食器（陶磁器、木椀）と
その他木製品に着目

陶磁器：すでに復元されている物もあり
着手しやすい。

木製品：愛媛県内で類のない豊富さ。
木地の里、小田の歴史と直結するため。



陶磁器

中国産・朝鮮半島産陶
磁器のレクチャー（愛
媛県埋文センター 柴田
圭子さん、法文大学院
生 益田千遥さん）を受
ける。



木製品

- ・太田城の箸、下
駄の類例調査。
- ・残っていない木
椀の類例調査。
- ・灯明台の類例調
査。

太田城関連の文献調査

太田城の由来と盛衰を解明
中世の生活・道具利用を学ぶ

- ・『太田城跡発掘調査報告書』
- ・『小田町誌』（1985）
- ・データベース『えひめの記憶』
<https://www.imanabi.jp/system/regionals/regionals/>
- ・渋沢敬三『絵巻物による 日本常民生活
絵引』全5巻、角川書店. 1965～68年

木製品

- ・小田地区の木地師
（木工技術者）に木製
品製作技術を学ぶ。
- ・複製品の製作を依頼
する。
→見学者の理解を
助けるため。

+

展示・
体験

03. 内子町小田地区太田城 位置・立地

所在地：喜多郡内子町小田大字町村429

通称：松ノ沖、城の台

立地：標高284mの丘陵頂部

現況：内子町城の台公園

2000（平成12）年4月完成

*小田の旧称が「太田」

鎌倉時代	1192年 - 1333年
室町時代	1336年 - 1573年
南北朝時代	1337年 - 1392年
戦国時代	1467年/1493年 - 1573年
安土桃山時代	1573年 - 1603年
江戸時代	1603年 - 1868年

▲太田城の時代

約100年前、大正末期の城の台
(内子町教育委員会提供)



城の台公園造営工事を終え、
滅失する前の太田城



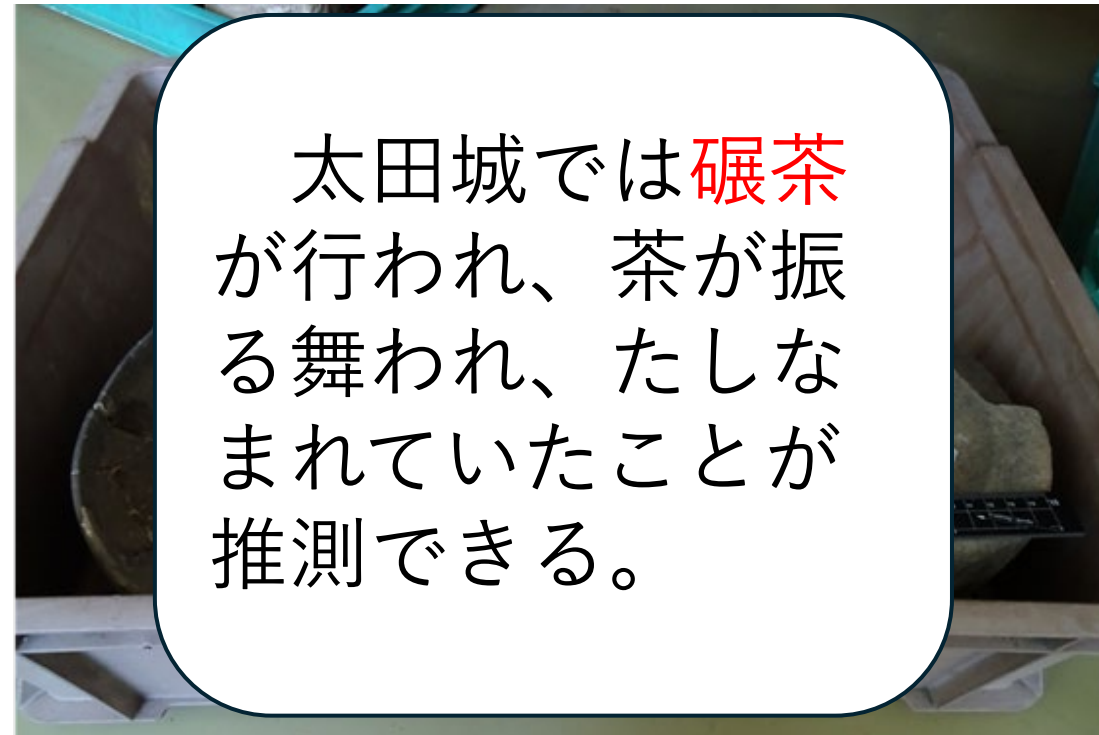
04. 太田城出土遺物の評価 — 石製品と灯明皿の評価 —

茶碗



▲太田城出土の中国・龍泉窯青磁碗（16世紀）

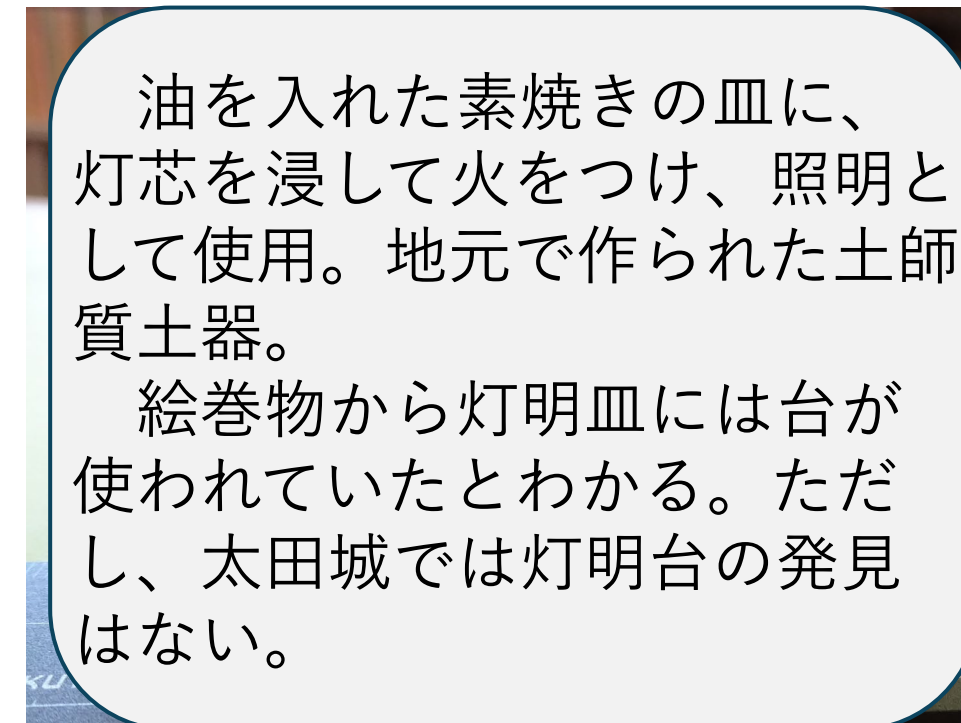
茶臼・すり鉢



太田城では**碾茶**が行われ、茶が振る舞われ、たしなまれていたことが推測できる。

▲資料館に保管される石臼・茶臼・すり鉢

灯明皿



油を入れた素焼きの皿に、灯芯を浸して火をつけ、照明として使用。地元で作られた土師質土器。

絵巻物から灯明皿には台が使われていたとわかる。ただし、太田城では灯明台の発見はない。

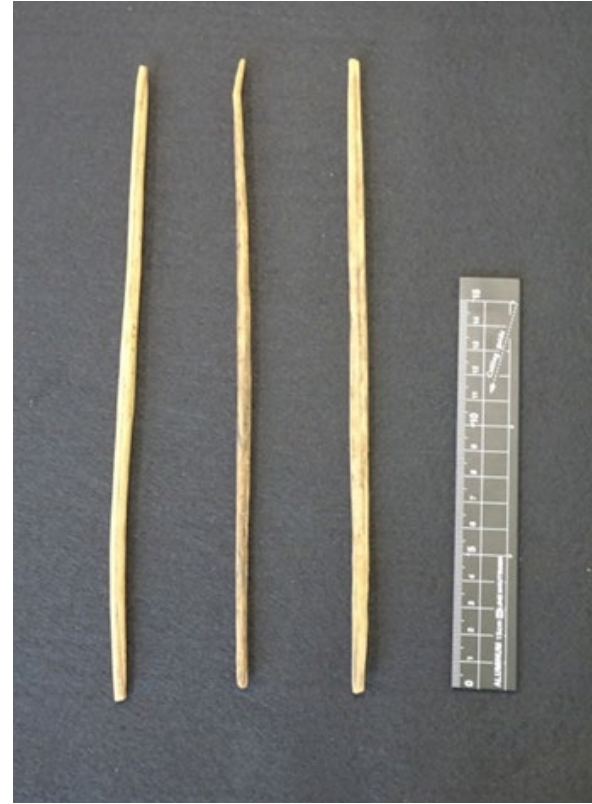
▲資料館に保管される灯明皿

04. 太田城出土遺物の評価

— 箸の評価 —

箸

200本を超える出土量。(未製品を含む) 四国では最多の出土量。



ア. 長さ：25.3～25.4cm



イ. 長さ：20.5～23.3cm



ウ. 長さ：13.1～18.8cm

箸専門店 箸久HPによる性別・年齢と箸の長さ

成人男性：23.5cm 成人女性：21.5cm 小人（3歳～11歳）：14～19cm

幼児（3歳未満）：13cm （菜箸：30cm）

イは成人の男性・女性、ウは幼児と小児に対応する。アは菜箸と考えられる。

太田城出土の下駄、箸から大人と子供の存在を想起できる。

05. 広島県における太田城出土遺物の類例調査 安芸郡山城(安芸高田市)・草戸千軒町遺跡(福山市)

中世の木製品が著名な安芸郡山城と草戸千軒町遺跡で木製品の類例調査を行い、太田城の木製品での評価を確認し、太田城に残らなかった木製品を復元する。

安芸郡山城（安芸高田市歴史民俗博物館）

- ・ 箸の長さの違いと年齢層の相関性を追認。
- ・ 下駄の種類、歯の高さは郡山城の方が多様。
- ・ 椀も多様であるが、太田城で発見された（その後、なくなった）椀と底部が同サイズの椀を確認し、詳細に記録・撮影した。



▲安芸郡山城出土木器調査



▲草戸千軒町遺跡出土木器調査

草戸千軒町遺跡（広島県立歴史博物館）

- ・ 椀、下駄が太田城よりも多様であった。
- ・ 灯明台の出土品だけでなく、復元品も多様であり、全てをスケッチ、撮影、採寸して記録した。



▲安芸郡山城出土の椀と箸



◀草戸千軒町遺跡出土灯明台の復元品



太田城にも存在したはずの椀と灯明台に関して、復元するデータを得た。

復元

椀・箸・灯明台
→うちこ山村クラフト研究所（高岡克典さん）
下駄→みやべもくり（宮部泰明さん）



▲草戸千軒町遺跡 食膳の復元

06. 調査成果の公表・共有 — 展示室・灯火の茶室体験 —

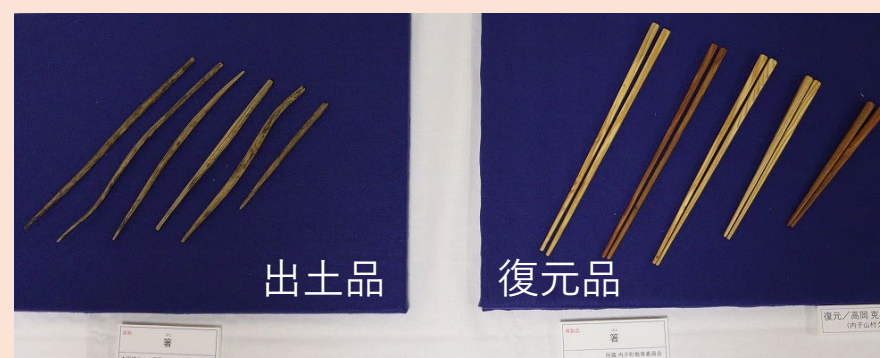
コンセプト

ただ遺物をならべて、遺物を説明するのではなく、遺物を通して、民具、復元品、絵巻物などを援用しながら太田城にあった戦国時代の暮らしを思い描けるような展示、体験を提供する。

太田城出土すり鉢（左）
と旧小田町民俗資料館所蔵すり鉢・すりこぎ（右）



太田城出土箸（左）とうちこ山村クラフト研究所による復元箸（右）



Source gallica.bnf.fr / Bibliothèque nationale de France. Département des Manuscrits, Japonais 5343
『酒飯論』 (16世紀後半)
フランス国立文献センター (Gallica.bnf) より引用

『酒飯論絵巻』、『慕帰絵詞』といった中世絵巻物を出土品の近くに掲示

令和7年度ふるさと学のススメ 応用編
～太田城再評価プロジェクト～

小田・太田城が伝える 戦国の暮らし

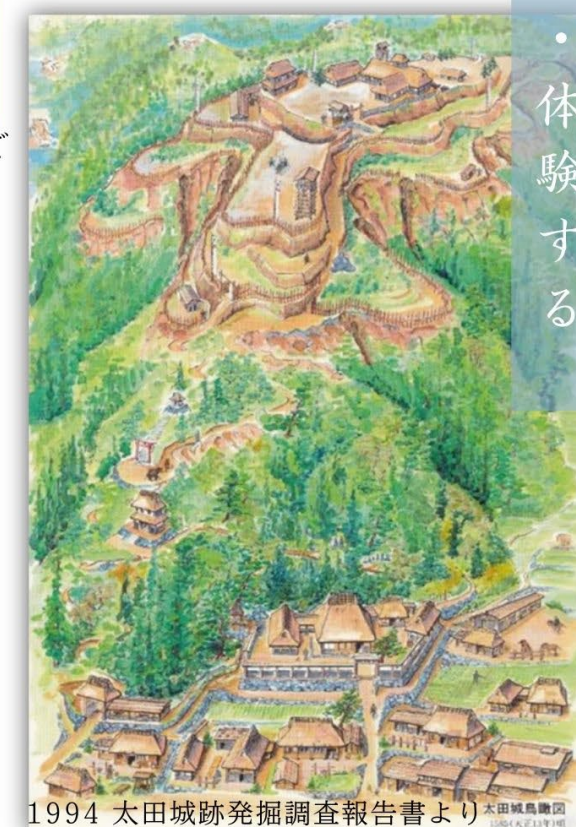
五百年前の暮らしに
触れる・体験する

発掘が昔の暮らしを
教えてくれる

約30年前、現在の城の台公園で大規模な発掘調査が行われ、室町時代～戦国時代の城あるいは館（やかた）の跡が発掘されました。発掘された多くの遺物は、当時の暮らしをみなさんに伝えたくてたまりません。

展示・体験紹介

- <展示室>
触れよう！戦国の暮らし
— 太田城で発見された品々 —
- <体験室>
灯火の茶室体験
— 往時の明るさを体感 —



1994 太田城跡発掘調査報告書より 太田城鳥瞰図

と き：令和7年12月20日(土)
10時00分～16時00分
※灯火の茶室体験は15時まで
と ころ：内子町林業センター
愛媛県喜多郡内子町小田81番地
内子町役場小田支所3階
(道の駅せせらぎより徒歩2分)



主催：内子町教育委員会 / 愛媛大学社会共創学部文化遺産論ゼミ
協力：うちこ山村クラフト研究所 / みやべもくり

お問合せ 内子町教育委員会 自治・学習課 ☎ 0893-44-2114
✉ gakusyujichi-s@town.uchiko.ehime.jp

06. 調査成果の公表・共有 —展示室・灯火の茶室体験—



▲太田城出土遺物展示室

令和7年度ふるさと学のススメ 応用編
「小田・太田城が伝える戦国の暮らし」
を開催【12/20】

11月～12月上旬 展示・体験会準備
12月10日 内見会
12月11日～19日 要望に応じて展示・
説明会
12月20日 本番



▲茶碗についてレクチャーを受ける参加者



▲実際に灯火の明るさを体験する様子

06. 総括

死蔵状態にある遺物の再評価

- ・ 旧資料館内の資料調査
- ・ 遺物に関する講義を受ける。
- ・ 広島県での類例の現地調査



活用のための工夫

- ・ 旧資料館の民具資料も活用
- ・ 木地師による木製品の復元
- ・ 絵巻物の援用
- ・ 茶道経験者の協力による生活復元と体験の提供



内子の中世以前における歴史資源を活かした事業／内子の文化財事業の幅を広げること支援

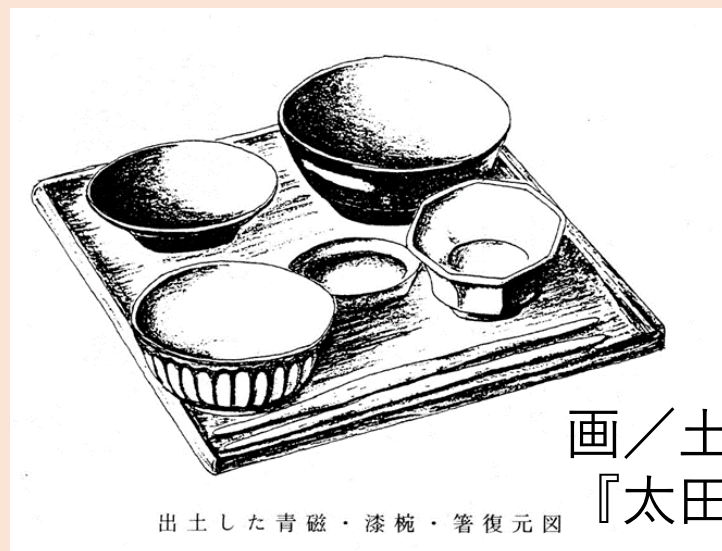
- ・ 近世（江戸時代）までしか対応できなかった文化財に関する事業を中世にまで拡張。
- ・ 町民の要望である居倍野城などの調査に先立つ予習にも太田城プロジェクトは有意義。

07. 今後の展望

- うちこ山村クラフト研究所から、絵巻物のなかの食器をさらに復元し、戦国時代の食膳を復元したいとの提案
- 芳我明彦氏の「庄屋の献立」は、江戸時代の献立ではあるが地産の食材を使っているとみられ、中世料理の復元も有効に活用でき、**太田城の献立の復元も可能であると考えられる。**

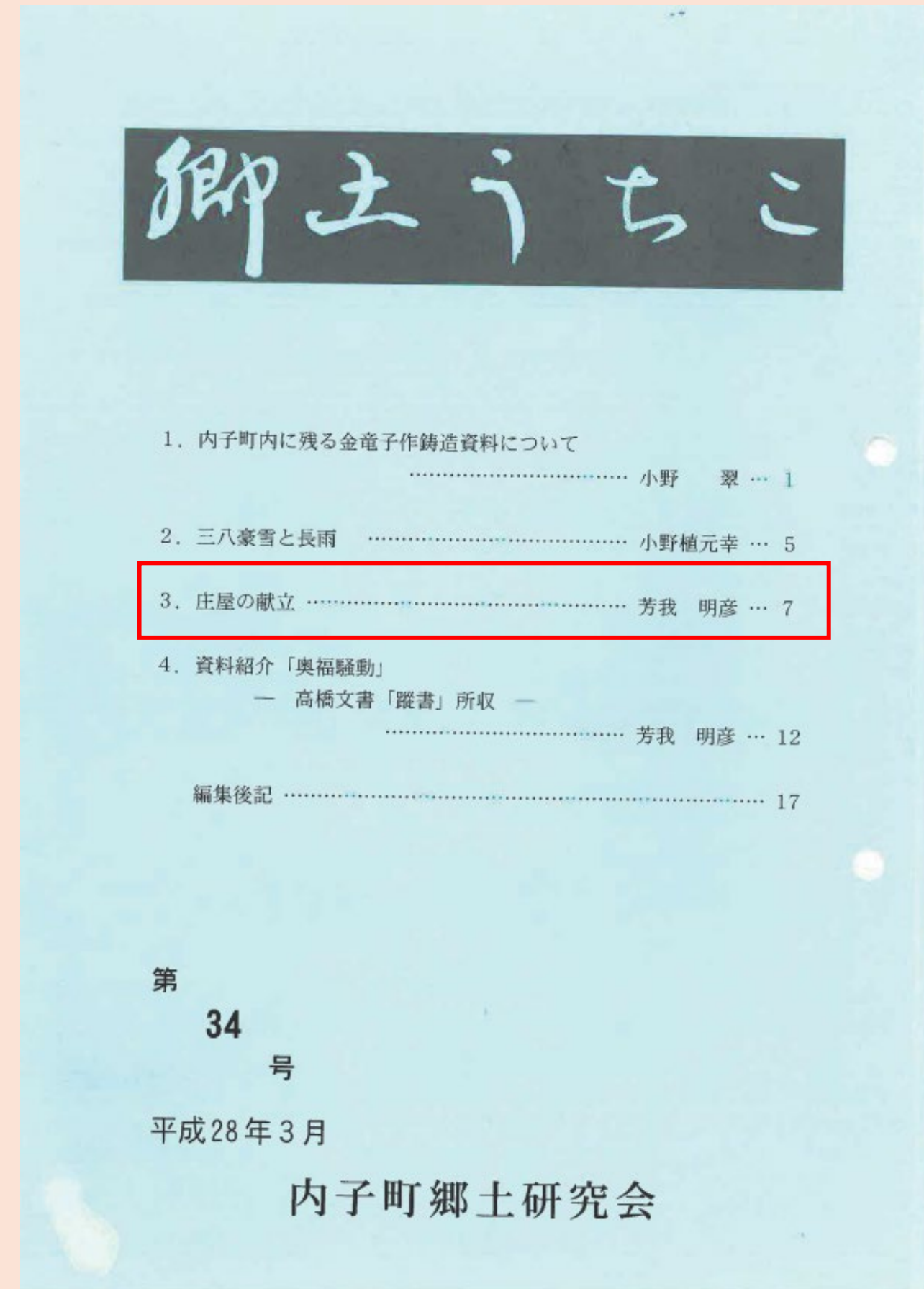


- 来年度は**中世の食文化**に焦点を当て、料理の復元を通して、太田城と当時の時代背景の理解・価値の創出を継続していく。
- **食文化に関する記録や出土遺物をもとに当時の食事風景を再現し、体験行事の開催**



画／土居通康氏
『太田城発掘調査報告書』所収

出土した青磁・漆椀・箸復元図



1. 内子町内に残る金童子作鑄造資料について	小野 翠 ... 1
2. 三八豪雪と長雨	小野植元幸 ... 5
3. 庄屋の献立	芳我 明彦 ... 7
4. 資料紹介「奥福騒動」 — 高橋文書「蹤書」所収 —	芳我 明彦 ... 12
編集後記	17

第
34
号
平成28年3月

内子町郷土研究会

08. 謝辞

安藤公雄様 柴田圭子様 益田千遥様

林純司様 福見光生様 新田佐由里様 太尾友香様 久保紋子様

(内子町教育委員会)

内子町林業センターのみな様

高岡克典様 加藤毅様 (うちこ山村クラフト研究所)

宮部泰明様 (みやべもくり)

神原洋子様 芳我明彦様 山田恵子様 (内子町小田地区のみな様)

09. 参考文献

内子町郷土研究会編 2016 『郷土うちこ』 第34号

岸田透編 1995 『太田城跡発掘調査報告書』 小田町教育委員会

財団法人 吉田町地域振興事業団編 2002 『郡山大通院谷遺跡（中世編 本文）』

鈴木康之 2023 『〈改訂版〉 中世瀬戸内の港町 草戸千軒町遺跡』 新泉社

林與一郎編 1985 『小田町誌』 小田町

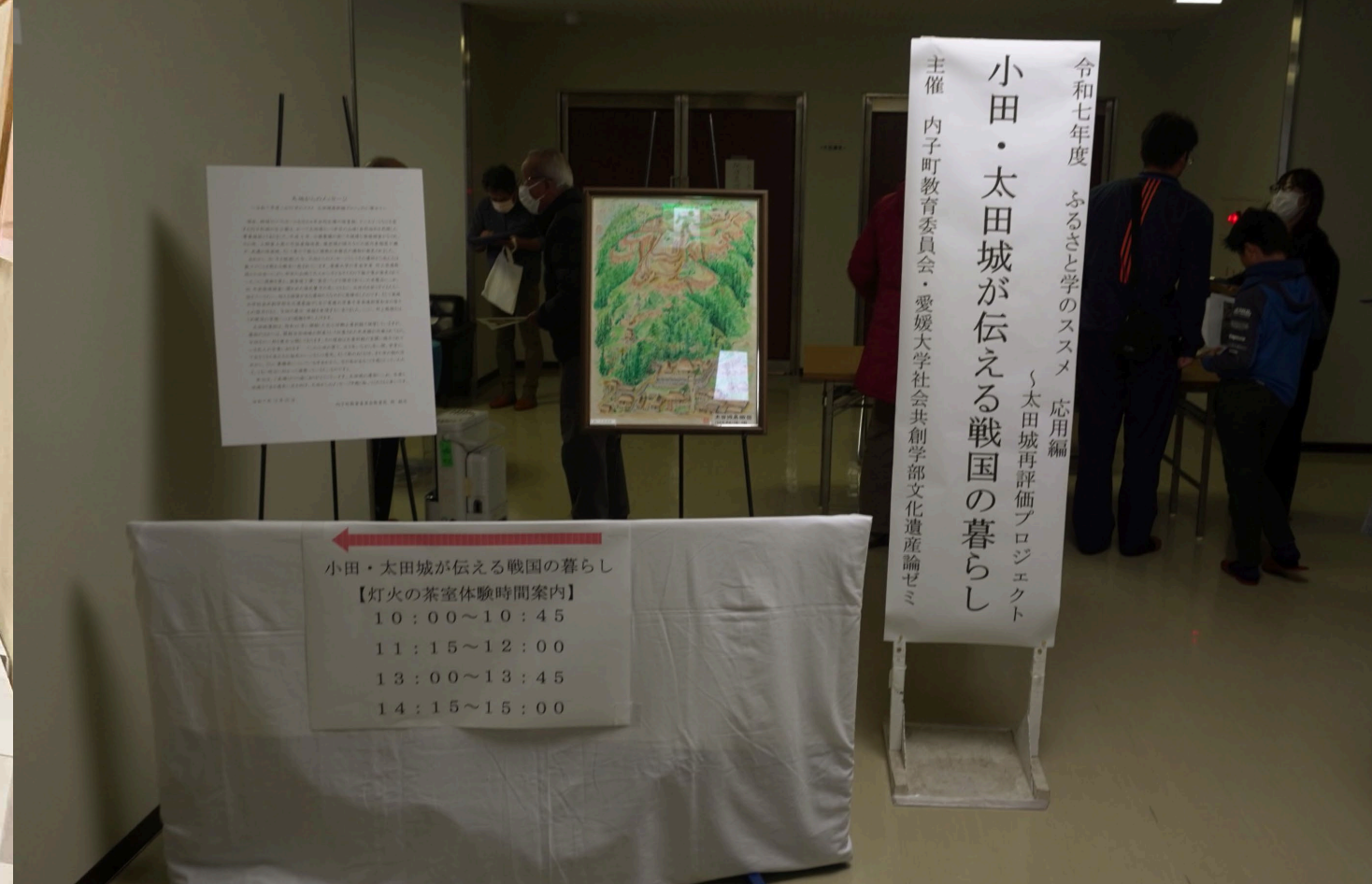
データベース 『えひめの記憶』

<https://www.imanabi.jp/system/regionals/regionals/>（最終閲覧日：2025年12月12日）

箸専門店箸久ホームページ <https://www.hashikyu.com/select/>（最終閲覧日：2025年12月12日）

PORTAIL BIBLISSIMA ホームページ

<https://portail.bibliissima.fr/ark:/43093/mdataab1a19462a17daa3c033bd02f60b1b5970d03abf2>（最終閲覧日：2025年12月13日）



ご清聴ありがとうございました

